

## アンケート回答

## 1. 計画を推進していくために

## 3) 行財政改革

東久留米市は、平成15年、野崎市政において財政危機宣言を行い、事務事業評価制度を導入し職員定数適正化や民間活力導入など行財政改革を徹底して進める中で財政健全化に努めてきたと認識しております。現在並木市政において財政調整基金が積み増しされてきてはおりますが、今年度の一般会計当初予算は昨年度と比べ15億5000万円も増加しております。社会保障関連経費が大多数を占めているとはいえ、行革に対する意識は常に強く持ち続けていかなければならないと考えます。

今後、老朽化した公共施設やインフラ整備、災害対策などで急な予算が必要になることも考えられます。行政評価制度を活用し改善・改革する余地がある部分をしっかりと精査し、実行していくことが重要であると考えます。

## 2. にぎわいと活力あふれるまち

## 2) 地域力向上への支援

大規模災害時の被害を最小限にとどめるには、「共助」が欠かせません。高齢者や障害者、妊婦など、災害時に配慮が必要な人への支援は、地域住民の日頃のつながりが大きな力を発揮します。自治会など地域コミュニティーの役割が改めて問われています。また、日常生活においても個人や家族レベルでは解決が難しい問題をサポートする役割も担っております。今後も増える認知症など高齢者の見守りや空き巣などの犯罪防止、児童虐待事件を防ぐ上でもコミュニティー機能は欠かせません。自治会加入率が減少傾向にある中で地域コミュニティー構築は一朝一夕にはいきませんが、できることから一つずつ進めていくことが大事であると考えます。

地域差はありますが、ここ数年で避難所ごとに避難所運営訓練が実施されるようになってまいりました。各避難所ごとに地域の自治会が連携する良い取り組みだと思います。

## 3. 住みやすさを感じるまち

## 1) 生活の安全・安心の向上

限られた予算と人員の中で、計画に沿って災害対策、防犯対策、交通安全対策を充実させていくことが重要な課題です。行政で対応しきれない部分をいかに地域の支え合いで対応していくか、そうした仕組みづくり、まちづくりも大事だと考えます。コミュニティー機能の充実により地域力を向上させていくための意識改革も必要だと考えます。

## 4. 健康で幸せにすごせるまち

## 1) 高齢者福祉の推進

超高齢化が進展する中で、介護が必要な状況になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まいや医療・介護サービス、介護予防、生活支援が一体的に受けられるよう、地域包括ケアシステムを構築していくことが重要な課題です。

特に制度改正によって来年度より始まる新しい総合事業が円滑に実施され、定着していくことが必要です。

元気高齢者地域活躍推進事業に期待します。

根本となるのは3年ごとの介護福祉計画が実効性あるものとなるような高齢者の実態把握とニーズ調査であり、自立支援に資するケアマネジメントの推進が重要と考えます。

## 5. 子供の未来と文化をはぐくむまち

## 1) 子どもが健やかに生まれ育つことへの支援

近年、核家族化が進み、高齢出産で妊婦の親世代も高齢化、また夫も仕事が忙しいなど、相談や支援を受けられない孤立した環境での育児により産後うつ、虐待に至るケースも少なくないとお聞きします。そういう面では妊娠期からの切れ目のない支援の体制を整えていくことは非常に重要であると考えます。

## 6. 地球環境にやさしいまち

### 1) 水と緑にふれあうまちづくり

水と緑は東久留米にとって大きな魅力であり、人口減少社会に突入した日本にあって微増ではあります  
が市の人口が増加したのは、住みやすい環境と認識されたことが大きいと感じています。環境の保全に携  
わっている多くの市民、関係者の皆様に感謝を致します。

川沿いの遊歩道はウォーキングにも適しており、今後予定されている健康マイレージ事業において健康  
増進、健康寿命の延伸や介護予防、さらには地域産業の活性化にもつながればと期待しております。

## 7. その他

### 2) 市政に対する「市民参加」について、その必要性とどのような形が考えられますか。また二元代表制 についてのお考えをお聞かせください。

地方政治は、住民が選んだ議員と首長で構成する二元代表制で推進されていることはご存知の通りです。  
議員は行政機関を監視する役割を果たすのは当然ですが、それにも増して地域の将来を見据えた政策立案  
能力や構想力が求められていると考えます。

市政に対する「市民参加」については、パブリックコメントや会合形式での意見交換も有効ではあると思  
いますが、パブコメやそういった集まりに参加される方は、市政に対し関心の高い方や主張を持った方  
が大多数を占めているということもあります。

議員として地域を回り、幅広い市民の方々の要望や悩み、課題をお聞きしていく中で多様な現場の声を  
集約し政策へと具現化していくことが重要であると考えます。